

男女共同参画社会を実現するための家庭科教育の実践

(代表者) 大阪教育大学附属池田中学校 大野 真貴

(協力者) 大阪教育大学附属天王寺中学校 安福 華世

1. 目的

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動を参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」を目指し、男女共同参画社会基本法が平成11年に施行され今日に至る。しかし2022年の世界経済フォーラムが発表したジェンダー・ギャップ指数の日本の総合順位は、146か国中116位（前回は156か国中120位）と、前回と比べほぼ横ばいの順位となっている。働き方の見直しをし、家庭生活の責任が女性に偏りがちな状況から男女ともに仕事と家事責任を担うことのできる社会体制作りが重要である。

そのような社会背景から、小中学校における男女共生教育やキャリア教育は意識づけという視点でも非常に重要な価値を占める。家庭科の授業を通して生徒自身が男女の共同参画社会の実現に向けての問題について考え行動できる人材の育成を目指す。

2. 活動の取り組み

附属池田中学校	附属天王寺中学校
授業主題「様々な性を生きる」	授業主題「避難所における男女共同参画を考える」
<p>1、「いろいろな性」 講演：清水 展人氏 氏の性同一性障害と診断された経緯から社会で自分らしく生きていくことについて学ぶ。</p> <p>2、「いろいろな性」② 公園を振り返り、班学習を行い、自分らしく生きていくことを考える。</p> <p>3、身近にある男女不平等とは 私たちの周りにある男女不平等と思われる事象について考える。</p> <p>4、「働き続けるということ」① 多様な働き方についてゲストティーチャーを招いて考える。</p> <p>5、「働き続けるということ」② 社会の現状と課題について考える。</p> <p>6、「働き続けるということ」③ 家庭での男女共同参画について考える。</p>	<p>1、天王寺消防署との合同授業を実施。 地震体験車を乗車し、震度7の地震を体験する。その地震から身を守るためにどのように行動することが必要かを学ぶ。 AEDでの救急救命講習を実施し、AEDの使用法と心肺蘇生法を学ぶ。</p> <p>2、災害時の情報確保と連絡手段 登下校時に災害が起こった時の安全確保と避難についてハザードマップを用いて避難場所を考える。</p> <p>3、避難所における行動と備え 学校において災害が発生した場合、自宅に帰るまでの学校での避難生活について考える。また、家庭で災害が起こった時の避難場所と避難経路、家庭での備えを考える。</p>

<p>7、「みんなが輝ける社会に向けて」 班学習を中心に、みんなが輝ける社会の実施に向けて提案する。</p>	
--	--

3. 活動の成果

(1) 生徒の成果物より（抜粋）

附属池田中学校	附属天王寺中学校
<p>○18歳になって選挙に参加できるようになる前に自分の中での意識を変えたいと思います。家事は母ばかりがおこなっているので、まずは手伝うことから初めて家事の大変さと父の仕事の大変さを学んでいき選挙に参加したいと思います。</p> <p>○性別による差別をなくしていくためには若い世代の意識を変えていかなければならないので子供たちへの男女矯正教育を積極的におこなって行ってほしいと思います。</p> <p>○家事は共働きだけとお母さんがすることが多いと感じています。それでもお母さんの方が早く帰ってきていたからそうだったので、今は2人ともかなり遅い時間に帰ってくるが増えています。兄や私はもう家事もできるのでこれからは私たちが率先して動けるようになりたいと思います。家族が疲れているときに助け合えるよう、男女関係なく家事を分担していきたいと思いました。</p>	<p>○近くで人が倒れて、最悪の場合の死んでしまうことが会った時、自分が何も分からなくて何もできなくて、どうしたら良かったんだと思うことがないように、教えて頂いたことをしっかり覚えて、命を落とす人が減るようにしていきたいです。この授業で教えていただいて本当に良かったです。震度7の地震がどれだけの力を持っているのかを知って、日頃の備えや知識がとても重要なんだと思いました。</p> <p>○自分は男子だが、女子でも倒れている人がいたら、はずかしいけど勇気を持って助けようと思った。</p> <p>○なんか怖いなあ、くらいであまり興味を持って調べたこともなかったので、危険性の高さに驚きました。その分、色々な防災に関する知識(防災バッグの作り方や災害用伝言ダイヤルのかけ方など)を積極的に学んで、少しは地震が起きてもパニックにならずに対処できるようになれたと思います。さらに調べるなどして知識を増やしたり、今起きたらこうしようと色々な場所でイメージするようにして、共助もできる人になりたいなと思います。</p>

授業の取り組みの中で、多くの生徒が以上のような「様々な場面で男女の協力が必要である」ということを考えた感想を見ることができた。

(2) 課題

上記の感想のように多くの生徒が男女共生について考えるように思われる。しかし、限られた授業の数の中で計画していたアンケートが実施できず、授業の前後での生徒の変容を看取ることができなかった。また、授業を受けて家庭や日常の中でどのように意識して行動できるようになったのか、また、授業で学んだことを家庭で生かしているかなど実践的な態度を図るまで至らなかった。

4. まとめと今後の取り組み

本実践は、中学校家庭科教育における男女共同参画社会の実現に向けて、生徒を取り巻く家庭や社会問題から「男女共生」を考えさせる授業展開を考えることであった。この当初の目的は生徒の成果物より、附属池田中学校、附属天王寺中学校ともに一定の成果を得ることができたと考ええる。また、ゲストティーチャーによる講演や地域関係機関との共同授業はそれぞれの中学校での課題を多角的に考えさせるため非常に有効であった。

しかし、生徒の意識の変容や実際に考えたことを生徒自身の生活にいかに関活用する実践的な態度を養うために更なる授業の工夫が必要と考える。